

1. 活動報告（事務局 記）

—10月9日（日）親子自然観察会「秋の昆虫」

ビオトープから昭和山に向かって周辺の秋の昆虫を探索し採取しました。各種トンボ、イナゴ、バッタ、蝶や甲殻昆虫等たくさん観察が出来ました。山道ではアケビ、野ブドウ等も実り秋真っ盛りでした。

参加者は観察会子ども11名・ジュニア7名、親会員12名、つくる会会員9名、合計39名でした。

エコアップと稲刈り準備も余った時間に行いました。

—10月15日（土）親子自然観察会 稲作体験「稲刈り・はぜかけ」

前日の大雨で開催が危ぶまれましたが、田んぼに水は残っているものの、雨がやんでいるので、稲刈り・はぜかけを実施しました。電気柵で猪の被害を完璧に防護出来たのですが、本日作業完了時は猪が田んぼを荒らした以上のぬかるみになりました。それほど参加者が多く、昔ながらの手刈りやはぜかけに興味をもって活動していただきました。

子ども会および父母の方34名・親子自然観察会会員33名・つくる会会員16名
総勢83名の活動となりました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

—11月15日 宇部探検倶楽部 山本美緒さんから見学決定の連絡あり

※案内者募集 15日9時二俣瀬ふれあいセンター

◎行事

—10月下旬 稲脱穀 天候次第では11月初め 追って連絡します。応援宜しく

—11月05日（第一土）エコアップ・維持管理活動

—11月26日（第四土）親子自然観察会「里山の暮らし」（手作業での稲こぎ・縄ない・竹細工）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありませんでした。

4. 会員の声 「60年ぶりの鷹の子山」 (内藤武顕 記)

9月30日 秋雨のなか60年ぶりに鷹の子山に登った。登山道は二俣瀬昭和会 in21 (ボランティア団体) の手で整備されており快適なハイキングコースになっていた。

実は鷹の子山探索は隠れ一回目が有った。7月29日ロマン探検隊9名はふれあいセンターに集合、熱き心で現地へ出発、各自手作り弁当を持参し頂上で楽しく食事をする予定だった。しかし食事場所は木陰の舗装道路となった。まわし飲みの冷たい水、愛情ムスビ尽きぬ話題、けれども「さあ！登ろう！」の掛け声が掛からなかった。

へこたれたのは、暑さと、歳のせいでもあったが、長門周防の国境沿いの割木松付近に古戦場跡あり説に全員盛り上がり、いい汗を流し過ぎたのであった。「盛家秘録」によると菊地の軍勢は※大小の石弩を放ち大内の軍勢を微塵にしたとか？その台地跡は11月の当地文化祭に展示されることでしょう。

今回は小雨のせいもあり素直な登山となった。登山口の「鷹の子山登山口」の白い標識は印象的に「あと30m」の標識に導かれ左側の急傾斜面を一気に登ると山頂前のピーク嘉助岩の展望地に辿りつく。私は相変わらずドン尻、見上げると隊員のお尻の揺れしか見えなかった。ドン尻とはよく言ったものだ。

登山の目的は鷹の子山古戦場跡と居城跡の探索に有った。「厚狭郡史」によれば厚東氏最後の当主厚東義武の弟である幸政が肥後の菊地武光の助けを借りて文中3年(1374年)大内氏と最後の決戦を挑んだ古戦場とある。その歴史的背景についての私の史観は今回は控えることにします。ただ雑木林の道で「山伏の墓」の標識を見るにつけ、上山中には熊野神社があり山伏の修験場であった事は想像できた。人工石も数か所散在していた。

杖を頼りに頂上に着いた頃にはすでにメンバーは大観望を楽しんでいた。三角点のある雨あがりの山頂は秋草にすっかり覆われていたが、小野の茶畑、青く輝く周防灘等東からの南面の景観は充分楽しめた。特に霜降岳が指呼の間に望めたのは一番の収穫であった。

厚東氏400年の歴史から毛利氏への時代の流れを秘める鷹の子山に限りない愛着を覚えた。

見渡す二俣瀬平野は実りの秋 空気ほど旨いものはなし豊の秋

春には二俣瀬小学校の児童による鷹の子山登山が計画されているとか、手作り弁当はやはり頂上が最適！みんなで校歌を合唱し「思い出」をつくってもらいたいものです。

※大小の石弩=蒙古より伝来した火薬を使った初期の大砲

5. 親子自然観察会

秋の昆虫観察 (10月9日、隊員18名、保護者12名、会員9名、) (管 哲郎 記)

秋晴れの晴天の中、昆虫の観察会を行いました。隊員の出席者も多く、全員が捕虫網とカゴを持ち賑やかに昆虫採集を楽しみました。さすがにチョウやトンボには隊員もてこずっていましたが、ジュニア隊員も上手にトンボやバッタを捕まえて、ほぼ全隊員がそれぞれ昆虫の採集ができ、満足のゆく採集会になったようです。

指導者のほうからも、普段あまり目にする事のない「アリジゴク (ウスバカゲロウの幼虫)」を穴から取り出し説明したり、秋を代表する「アケビ」をみつけ採集したり、枯れ葉そっくりの蛾を見つけ披露したりのサービスをおこないましたが、隊員よりも親のほうが驚いていました。

【採集した昆虫】

(チョウ類)・メスグロヒョウモン・?ヒョウモン・ベニシジミ・キタキチョウ・モンシロチョウ

(トンボ類)・ヒメアカネ・マユタテアカネ・ナツアカネ

(バッタ類)・トノサマバッタ・ヒシバッタ・オンブバッタ・ショウリョウバッタ・ミヤマフキバッタ・ツチイナゴ・クダマキモドキ・クサキリ・エンマコオロギ

(カマキリ類)・ハラビロカマキリ・チョウセンカマキリ・コカマキリ

(テントウムシ類)・ナナホシテントウ

(ゴミムシ類)・キボシアオゴミムシ～持ち帰り同定しました。

【その他・見かけた昆虫類】リスアカネ・ギンヤンマ・キトンボ・シオカラトンボ・ナミアゲハ・ヤマトシジミ・ホシヒメホウジャク



稲作体験「稲刈り・はぜかけ」

10月15日前日は大雨折角の乾燥した田んぼもぬかるみとなった。分かっていたが少々のことでは計画を変更できない。やはり何人かの問い合わせがあった。親子観察会は何があっても9時東屋に集合がモットーである。集まった後決めれば良い。春の総会の時から決まっていることだから！

お米作りは大変である。田植え・稲刈り・餅つきが全てでない、したがって一つ一つの稲づくりの作業も丁寧にきちっとしなければならない。参加した子どもや、この子たちの親は腰を曲げて手作業での経験がほとんどない。機械ですれば非常に簡単に作業が出来る。それをあえて手作業ですることには奥深い意義があるというものである。

この丁寧にする作業を我々経験者は伝承しなければならないが、良い顔をしようとして中々言いにくく適正な指導が出来ないジレンマがある。荒ましく作業をする子に親の前で叱ることは難しい。

それでも9時30分スタートし11時には4、5畝の稲刈りとはぜかけは完了した。親子自然観察会の子ども20名、親会員13名、二俣瀬子供会23名つきそい父母11名ほか 校長先生、つくる会会員16名他総勢80数名の大イベントになった。自分が小学生だったころにこれだけの手伝いが有ったら1町歩の田んぼもなんのそのすぐに“刈みて(かりみて) “になったと思う。

刈みて＝かつては 農作業の区切り区切りに…みて…みてと言ってその都度御馳走を食べ身体を休めて次の作業の準備をしたものである。例をあげれば、植えみて＝膝癒し刈みて＝稲を刈り終わる、こぎみて＝千歯こぎ、足踏脱穀が終わった時等々みては、なくなる意味の終わるに通ずる

事務局 原田

6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(41) キトンボ (トンボ科・アカネ属) *Sympetrum croceolum*

北海道から九州地方まで分布し8月～11月までみられます。池の近くに木立が見られるところを好み、オスは池に突き出た小枝や、池に張り出した雑木の上などに縄張りを持ち、ひんぱんにパトロール飛行を繰り返します。メスは池から少しはなれた休耕田や空き地に移動し、産卵の為に池を訪れます。オスは池を覗けば簡単に見られますが、メスの姿は捜さないで見ると見ることは難しいかもしれません。

農村部に行きため池を覗けば普通に見られますが、安全で簡単に見ようと思えば、ビオトープ以外では下関市吉田の東行庵の池が良いでしょう。



キトンボの (♂)



キトンボ (♀)



キトンボの交尾連結 上:♂ 下:♀



キトンボ連結産卵飛翔 前:♂ 後ろ:♀



上:縄張り休止の♂

右:午前6:00羽化終了前の♂ →



7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

- 1) 緊急連絡 11月6日の活動日は宇部市政90周年行事「宇部まつり」と重なりますので11月5日(土曜日)に変更致します

8. 編集後記

暑い夏が終わり、すっかり秋になりましたね。今月は、黄金に輝く稲穂が刈りとられ、秋から冬へ向かって楽しみが一つ進んだ感じです。

この夏、私は、チャレンジしたいことがあって、6年半勤めた会社を退職しました。今は新しい道に向かい、家事育児をしながら勉強を続けています。

退社とともに、本格的に周南市へ移り住みましたので、今後、ますますビオトープへの参加が困難になりました。

とはいえ、これまで、ほとんど参加していなかったですが・・・。

編集委員を通じて、ずっと里山ビオトープ二俣瀬の姿を見られて、すっかり参加した気分になっていました。

その編集委員も、この度、辞退することにしました。

長い間、お世話になりました。ありがとうございました。

また、みなさまにお会いする日を楽しみにしております。

(小田 政江 記)

編集委員は9名(西原一誠、原田満洲夫、若林正治、前田歳朗、松本フデ子、大野靖子、中本亜矢子、小田政江、松村悠美)でしたが、会報123号にて小田さんと松村さんの2名が編集委員を辞められます。長い間、ご苦勞様でした。今後は7名の編集委員で続けて会報を発行していきますが、どなたか編集委員になろうという方がおられましたなら、編集責任者の西原までご連絡をお願いいたします。

(西原 記)